

【農学部】

○ディプロマ・ポリシー

農学部は、本学部の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（農学）の学位を授与する。

- DP1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付けている。
- DP2. 学科毎に複数の学問分野の基礎となる知識を修得し、自然現象を生物学、化学あるいは生態学及び環境学の観点から捉えることのできる能力を身に付けている。
- DP3. 学科毎に学修した基礎知識を関連する産業分野あるいは行政などに有効に利用するための技術など農学の応用分野に関する高度な専門知識を身に付けている。
- DP4. 実験・実習、演習、卒業研究などを通して、研究に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付けている。
- DP5. 科学における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学における高い探求心を持ち、継続して学修する能力を身に付けている。

<応用生物科学科>

応用生物科学科は、本学科の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（農学）の学位を授与する。

- DP1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付けている。
- DP2. 分子生物学、遺伝学などを学修し、生物の仕組みを多角的に理解するとともに、データ科学に関する基礎能力を身に付けている。
- DP3. 植物を中心とした様々な生物の機能を探索・開発し、食料や資源の生産を通じた持続可能な循環型社会の創生に貢献するための技術開発に関する幅広い知識を学修し、応用生物科学分野に関する高度な専門技術を身に付けている。
- DP4. 実験・実習、演習、卒業研究などを通して、研究に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付けている。
- DP5. 科学における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学における高い探求心を持ち、継続して学修する能力を身に付けている。

<生命機能化学科>

生命機能化学科は、本学科の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（農学）の学位を授与する。

- DP1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付けている。
- DP2. 生化学、有機化学、微生物学などのバイオサイエンス・バイオテクノロジーの基礎となる知識を修得し、生命現象を分子レベルで捉えることのできる能力を身に付けている。

- DP3. 生物が作り出す様々な資源や生物の優れた機能を生活や産業さらに環境保全などに有効に利用するための技術など生命機能化学の応用分野に関する高度な専門知識を身に付けている。
- DP4. 実験・実習、演習、卒業研究などを通して、研究に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付けている。
- DP5. 科学における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学における高い探求心を持ち、継続して学修する能力を身に付けている。

<緑地環境科学科>

緑地環境科学科は、本学科の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（農学）の学位を授与する。

- DP1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付けている。
- DP2. 緑地学や農業工学、生態学や環境学などから構成される緑地環境科学の基礎となる知識を修得し、緑地環境に関わる広範な課題を多角的に捉えることのできる能力を身に付けている。
- DP3. 緑地環境を適切な指標を用いて計測、診断、評価し、緑地環境の保全及び管理を実践するための技術など緑地環境科学分野に関する高度な専門知識を身に付けている。
- DP4. 実験・実習・演習、卒業研究などを通して、緑地環境科学に関する研究及び専門技術に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付けている。
- DP5. 科学及び専門技術における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学及び技術における高い探究心を持ち、継続して学修する能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー

農学部のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- CP1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、基幹教育科目（初年次教育科目）を配置する。
- CP2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目）を配置する。
- CP3. 農学部での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるため、基幹教育科目（基礎教育科目）を配置する。
- CP4. 農学全体における農学部の位置づけや各学科間の学問との関連性を理解させるために、1年次に専門科目（学部共通科目）として「農学概論」を配置する。
- CP5. 各学科での学修に必要となる基本的な専門知識を身に付けさせるために、学科基礎科目を配置する。
- CP6. 各学科での専門的知識を修得させるために、講義科目としての学科専門科目を体系的に配置する。
- CP7. 各学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを養うために、実験・実習・演習科目として専門科目（学科基礎科目、学科専門科目）を体系的に配置する。

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

<応用生物科学科>

応用生物科学科のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- CP1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、基幹教育科目（初年次教育科目）を配置する。
- CP2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目）を配置する。
- CP3. 応用生物科学科での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるため、基幹教育科目（基礎教育科目）を配置する。
- CP4. 農学における応用生物科学科の位置づけや他学科における学問との関連性を理解させるために、1年次に専門科目（学部共通科目）として「農学概論」を配置する。
- CP5. 応用生物科学科での学修に必要となる生化学、分子生物学、遺伝学、情報科学などの

基本的な専門知識を身に付けさせるために、専門科目（学科基礎科目）を配置する。

- CP6. 応用生物科学科における専門的知識を修得させるために、講義科目としての専門科目（学科専門科目）を体系的に配置する。
- CP7. 応用生物科学科における専門的技術、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを養うために、実験・実習・演習科目として専門科目（学科基礎科目、学科専門科目）を体系的に配置する。
- CP8. 食料の生産・流通、安全・安心に関する専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「食生産科学副専攻」を設置する。
- CP9. 植物工場生産に関わる専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「植物工場科学副専攻」を設置する。

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

<生命機能化学科>

生命機能化学科のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- CP1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、基幹教育科目（初年次教育科目）を配置する。
- CP2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目）を配置する。
- CP3. 生命機能化学科での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるため、基幹教育科目（基礎教育科目）を配置する。
- CP4. 農学における生命機能化学科の位置づけや他学科における学問との関連性を理解させるために、1年次に専門科目（学部共通科目）として「農学概論」を配置する。
- CP5. 生命機能化学科での学修に必要となる生化学、有機化学、微生物学などの基本的な専門知識を身に付けさせるために、専門科目（学科基礎科目）を配置する。
- CP6. 生命機能化学科における専門的知識を修得させるために、講義科目としての専門科目（学科専門科目）を体系的に配置する。
- CP7. 生命機能化学科における専門的技術、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを養うために、実験・実習・演習科目として専門科目（学科基礎科目、学科専門科目）を体系的に配置する。
- CP8. 食の安全・安心に関する専門家の育成を目指し、食品安全科学分野に特化した専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「食品安全科学プログラム」を設置する。

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

<緑地環境科学科>

緑地環境科学科のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- CP1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、基幹教育科目（初年次教育科目）を配置する。
- CP2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語科目）、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目）を配置する。
- CP3. 緑地環境科学科での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるために、基幹教育科目（基礎教育科目）を配置する。
- CP4. 農学における緑地環境科学科の位置付けや他学科における学問との関連性を理解させるために、1年次に専門科目（学部共通科目）として「農学概論」を配置する。
- CP5. 緑地環境科学の専門領域に関わる基礎的知識を修得させるために、専門科目（学科基礎科目）を配置する。
- CP6. 緑地環境科学の専門領域に関わる原理やシステムの理解力とその応用力を身に付けさせるために、専門科目（学科専門科目）を体系的に配置する。
- CP7. 緑地環境科学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを育成するために、実験・実習・演習科目及び学外実習（インターンシップ）科目として専門科目（学科基礎科目、学科専門科目）を体系的に配置する。
- CP8. 研究やプロジェクトを自主的、計画的に遂行するとともに成果をとりまとめる能力を養成するために、少人数の演習科目を配置し、卒業研究を必修とする。
- CP9. 植物工場生産に関する科学と技術を理解し、植物工場産業を支えることのできる素養を備えた人材を育成するため、植物工場科学副専攻の履修対象科目を配置する。

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

○アドミッション・ポリシー

今日、人類は国内外の様々な課題、すなわち、エネルギー、環境、食料、健康などに関する諸問題に直面している。農学は生物の機能と生命現象の解明や応用に加えて、自然環境、自然現象の理解、また、それらの調和と持続的な利用など多岐にわたる学問分野を内包しており、人類が抱えている諸問題解決への貢献が期待されている。そこで、農学部では広範な農学に関する専門的な知識や技術を修得するとともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観や創造力を身に付けた、産業・社会の持続的発展と学術の進歩に貢献できる専門職業人の育成をめざす。

したがって、農学部では次のような学生を求めている。

1. 農学について学ぶことに対する明確な目的意識を持ち、社会の持続的発展に貢献する意欲を持っている人
2. 社会における複雑な課題の発見とその解決のために、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する基礎的能力を持っている人
3. 幅広い興味を持ち、自ら進んで学ぶ探求心を持っている人

<応用生物科学科>

応用生物科学科は、生物の多様な潜在能力を明らかにし、その成果を人類の生活に役立てるための幅広い教育を行う。このような教育を通して、生物科学を活用できる専門的な知識や技術を修得するとともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観や創造力を身に付けた、産業・社会の持続的発展と学術の進歩に貢献できる専門職業人の育成をめざす。

したがって、応用生物科学科では次のような学生を求めている。

1. 生物科学を持続可能な社会の構築へ役立てることに対する明確な目的意識を持ち、その学びのための基礎的知識を持っている人
2. 社会における複雑な課題の発見とその解決のために、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する基礎的能力を持っている人
3. 他の専門分野とも柔軟に連携しながら、健全な社会の発展に貢献したいと考えている人

以上に基づき、次の1～5の能力や適性を持つ学生を選抜する。

1. 物理、化学、生物のうち少なくとも2科目について深く学び、高い学力を有すること
2. データ解析などに必要な数学の基礎学力を身に付けていること
3. 学術雑誌の内容の理解、レポート作成、研究内容発表のために必要な英語や国語の基礎学力と論理的な思考力を備えていること
4. その他の教科・科目について幅広い知識を有すること
5. 自ら積極的に考えて表現することができ、かつ多様な分野に興味と関心を持ち、課題の発見とその解決のために他者と協働して行動できること

<生命機能化学科>

生命機能化学科は、化学を基盤とした生命現象の解明と生物資源の利用に関する幅広い教育を行う。このような教育を通して、広範なバイオサイエンス・バイオテクノロジーに関する専門的な知識や技術を修得するとともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観や創造力を身に付けた、産業・社会の持続的発展と学術の進歩に貢献できる専門職業人の育成をめざす。

したがって、生命機能化学科では次のような学生を求めている。

1. バイオサイエンス・バイオテクノロジーについて学ぶことに対する明確な目的意識を持ち、そのための基礎的知識を持っている人
2. 社会における複雑な課題の発見とその解決のために、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する基礎的能力を持っている人
3. 他の専門分野とも柔軟に連携しながら、社会の持続的発展に貢献したいと考えている人

以上に基づき、次の1～5の能力や適性を持つ学生を選抜する。

1. 物理、化学、生物のうち少なくとも2科目について深く学び、高い学力を有すること
2. データ解析などに必要な数学の基礎学力を身に付けていること
3. 学術雑誌の内容の理解、レポート作成、研究内容発表のために必要な英語や国語の基礎学力と論理的な思考力を備えていること
4. その他の教科・科目について幅広い知識を有すること
5. 自ら積極的に考えて表現することができ、かつ多様な分野に興味と関心を持ち、課題の発見とその解決のために他者と協働して行動できること

<緑地環境科学科>

緑地環境科学科は、生命の基盤となる農地や自然地、生活の基盤となる都市の緑地について、その保全・創成に関する幅広い教育を行う。このような教育を通して、緑地環境の保全と創成についての専門的知識や技術とともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観や創造力を身に付けた、産業・社会の持続的発展と学術の進歩に貢献できる専門職業人の育成をめざす。

したがって、緑地環境科学科では次のような学生を求めている。

1. 緑地環境の保全と創成について学ぶことに対する明確な目的意識を持ち、社会の持続的発展に貢献する意欲を持っている人
2. 社会における複雑な課題の発見とその解決のために、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する基礎的能力を持っている人
3. 幅広い興味をもち、自ら進んで学ぶ探求心を持っている人

以上に基づき、次の 1~5 の能力や適性をもつ学生を選抜する。

1. 物理、化学、生物のいずれかについて深く学び、高い学力を有すること
2. データ解析などに必要な数学の基礎学力を身に付けていること
3. 学術雑誌の内容の理解、レポート作成、研究内容の発表のための英語や国語の基礎学力を身に付けていること
4. その他の教科・科目について幅広い知識を有すること
5. 自ら進んで学ぶための主体性を有し、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する能力と学内外の社会的な活動に参加しうる多様性・協働性を備えていること